

教えて、学んで30年



経済学研究科 玉井 金五

学問への目覚め

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから4年間、大学という新しい環境のもとで勉学、課外活動等に励むこととなります。人生で一番多感だといわれる時期ですので、ぜひともたくさんの方の吸収してください。

日本の大学生は大学受験まではよく勉強するけれども、一旦大学に入るとその意欲がなくなるといわれます。それは、本人の主体性の問題もありますが、授業を提供する側にも課題を抱えていることがあります。大学の授業ではまずそれまでと異なって受講者がかなり多いケースがあり、大教室で集中しづらいときがあるでしょう。また講義内容の抽象度が高く、難解な言葉そのものについていけないこともあります。「わからない」「は、おもしろくない」につながり、授業から離れてしまう大きな要因になります。この点に授業

アン ロゾ Un roseau

総合教育科目ガイドブック

No.13

タイトル“Un roseau(アン ロゾ)”
—— 一本の葦 —— について

B.Pascal (1623-1662) は、一人一人の人間の存在を一本の葦に例えました。葦は河岸や湖岸などの水辺に生える、ススキに似た植物です。その存在は真にはかなく、人も同様で、その存在はきわめてはかないものであると…。しかし、Pascalは言うのです。

L'homme n'est qu'un roseau, le plus faible de la nature, mais c'est un roseau pensant.
(ロム・ネ・カン・ロゾ、ル・プリユ・フェブル・ドウ・ラ・ナトゥール、メ・セタン・ロゾ・パンサン)

—— 人は一本の葦に過ぎない。自然界でもっとも弱いものだ。しかしそれは考える葦だ。——

人間は水辺の一本の葦のようにはかない存在ではあるのだが、考える(思考する、思想する)という行為によって有形の現象の世界(形而下の世界)のみならず、その奥にある広い広い世界(形而上の世界)を知ることができる存在なのだ。Un roseauとは「あなた」のことなのです。

力いっぱい
カレッジ・イングリッシュを
学ぼう



看護学研究科 廣田 麻子

おめでとつ、仲間だね

新入生の皆さん、きょうから皆さんも大阪市立大学の一員、私たちの仲間ですね。じつは私も大学・大学院と大阪市立大学で9年間学生として過ごし、その後ずっと全学共通教育の英語を担当してきました。言ってみれば皆さんの先輩にあたる、生え抜きの教員です。そこで、学生として過ごした自分の体験を踏まえながら大阪市立大学でいかに学ぶか、とくに語学を中心にお話ししたいと思います。

飛び込め、海の真ん中に

私が大学に入って初めての夏休みの英語の宿題は、「ロングマン現代英英辞典を隅から隅まで読み、間違いない見つけて報告せよ。」というものでした。辞書は知らない単語に出くわしたときに引くものだと思っていた私は、「隅から隅まで読め」と言われて気が遠くな

担当者は気を付けなければなりません。

実は私が大学2回生のとき、私の一生を左右する講義に出会いました。その先生はチヨークを1本だけ持って入室される。そして、以後濃みなく淡々と話が続くのですが、それが染み透るように頭に入ってくる。「わかりやすい」「おもしろい」「ふかい」の3点セットと評してよい、すばらしい講義でした。私の専門は経済学だったので、それによって一気に経済学全体に関心が及ぶことになりました。いわば、先の先生の講義は学問研究への目覚めとなる導火線の役割を果たしたのであります。この出来事がなければ、私はおそらく平凡な勉学を繰り返す一学生であつたといつていいかもしれません。

研究者への途

学部学生の時に、まだ十分とはいえないかたのですが、専門の文献を読み解ききつたのを掴みました。つまり、書かれている中身をそのまま信じるのではなくて、疑問に思ったことは自分で調べてみる、そして、その文献のあいまいさや、事実誤認といったことを発見できるようにしました。これは、大学院に進学してから加速しました。大学院時代になりますと、教科書に書かれていることがどこまで正しくて、どこまでがそうでないかが部分的にわかるようになってきます。そつなると、研究は俄然面白

くなります。私は、この段階にいくことを教科書をジャンプする、つまり教科書をまえにして学んでいたのが、逆に教科書の裏側に立つ、教科書を書く側に回っています。

これが、研究者と学生の立ち位置の決定的な違いとなります。教科書を境にしてまえに学生が、後ろに先生がいるという形を想定してみるといいですね。学生ときに教科書から学ぶことは重要ですが、それは通説を知るといふことですので、一番基本的なことです。しかし、そこからどこまで先に進めるかがポイントとなります。きつかけはいろいろとありますが、私の場合は衝撃的な講義に出会い、それが決定的な影響を与えることになりました。その意味でも、先生から発せられる魅力的な講義の持つインパクトは大変大きなものがあるといつていいでしょう。

京都大学での講義エピソード

私は大学院を修了してから市大経済学部の助手となり、本格的な研究者の途を歩むことになりました。私にとって、講義のモデルはすでに存在していました。「わかりやすい」「おもしろい」「ふかい」です。しかし、これはなかなかむつかしく、若いときは苦戦しました。講義を担当してから10数年経過したとき、京都大学の経済学部で私の専門である社会政策を講義する機会に恵まられ

りそうでした。それに、辞書に書かれていることはすべて正しいと思ひ込んでいたものですから、辞書に間違いが潜んでいるかもしれないと思つて読んだこともありませんでした。その宿題を出された大沼雅彦先生は、それを成し遂げる方法についても言及されました。いわく、「起きている間はロングマンを読み続けよ、食うときも、便所でもだ！寝るときはロングマンを枕にし、起きたらまた読め！」無理だと思ひましたよ。辞書にはとどころにレファレンスがあるでしょう、たとえば *Stone* (がっしりとした) の項には *see NAT (USAGE)* というように。そつしたら今度は *art* の用法欄を見るわけです。また、間違いを見つければよと思ひれば他の辞書も見なければなりません。砂を噛むような、とはまさにこのことです。1回生の夏は、そうして過ぎて行きました。

夏の終わり、私のロングマンは書き込みと汗で(本当に枕にもしましたからね)かなり使い込んだ風合いになっていました。実際、英英辞典の仕組みは手に取るように分かるようになっていました。このことはあとあと大変役に立ちました。もちろん、現代英英「だけでは足りません。古いものや韻文を読むときには *OED* を引くとか、作文するときには *Corpus* の辞書を引くとか、用途に応じていろいろな辞書を扱えなければなりません。でもいったん「現代英英」を読み通せていると、あとの辞書については次々と使いこなせるようになるものです。

それからかなり時間がたって、私は小学館の「プログレッシブ英和辞典第5版」に執筆する機会を得ました。辞書を「書く」ことは、読むことの何倍も大変な作業です。が、1回生のころ乗り越えた気の遠くなる

ような作業と相通するところがあり、任務を果たすことができました。今から思うと大沼先生のご指導は、泳げもしない子を海の真ん中に放り込むようなもので、もがいてもがいてもがき続けて自分で泳ぎを習得せよと言わんばかりのご指導でありました。がしかし、そのことによって身についたものは何物にも代えがたい財産になっています。今の大阪市立大学の初年次教育は、もっときめ細やかで、溺れてそのまま沈んでしまふことのないよう配慮されたものになっていますが、一方で「海の真ん中に飛び込め」の精神もまた、大阪市立大学には受け継がれているのです。

英作文

もうひとつ、低学年の頃の忘れられない授業が英作文です。和文英訳でもなければ *エッセイ*・*ライティング* でもなく、ただ毎週1ページの英文を丸暗記するというものでした。教室に行くと学生たちは口でぶつぶつと唱えたり、紙に書いて覚えたり。なんと泥臭い光景です。先生が入ってこられると白紙の紙を配られて、そこに覚えた丸1ページの英文を思い出して書くのです。鉛筆で書く音だけが教室に響きます。書き終わると隣の人と交換して相互採点をします。1単語につき1点で、間違つた数を数えます。まったく間違いなく書けていれば0点(これが最高点ですね)、1単語間違つことに1点2点と積み重なっていきます。普通1ページは100語以上ありますが、全部書けていないと100点と数えます。名簿順に名前を呼ばれると、自分の点数を先生に報告します。重苦しい雰囲気ですよ。担当の山本史郎先生は、その点数を教務手帳に書き留められます。当時はセメスター制ではなかったため、それが延々と1年間続きました。

した。指定された教室が京大では有名な法
経1番教室です。丁度時計台の下にあるマ
ンモス教室で軽く500名以上は収容でき
たでしょう。よくセンタ 試験のとき受験
の光景が映し出される、あの大教室です(今
はなくなりましたが)。

噂ですが、京大生はあまり講義に出てこ
ないということ聞いていました。マンモ
ス教室で学生がほとんどきていなかったら
どうしようと不安になりました。1回目の
とき、担当者の顔を見に来た学生もいたで
しょうが、おおよそ100名から150名
近くは入っていたのではないかと思います。
まず安堵しました。しかし、そのうちに消
えていく可能性があると思いつつ、2回目、
3回目に臨みましたが、最初とほとんど変
わらない状態でした。最も感心したのは、
講義が始まると一切私語がなくなることで
これは教員を集中させてくれます。日頃は
すぐに思いつかない適切な事例も、なぜか
スツと出てくるのです。

よくコンサートで良き聴衆が優れた演奏
者を育てるといいます。これは、先生と学
生の関係にあてはめることができます。最
初から参加した京大の学生はほぼ全員最後
までついてきてくれました。講義内容は市
大で行っているものと全く同じです。私は
自信ができました。以後、市大ではそのと
きに確立した講義スタイルを今日までとつ
てきています。

新入生へのメッセージ

現代の日本では大学に進学する者が非常
多くなり、学生自身も以前と比べて随分多
様化しました。それとともに、大学で何を
学ぶかが曖昧になってきています。しかし、
いつの時代でも教養的・専門的学習が最も
基本であることは、いつまでもありません。
学習は心の重要な栄養素となります。頭脳
が最も柔軟なときに受験用とは異なる知力
を育むことを、もっと重要視すべきです。
しかし、そうはいつても学生の皆さんが本
物の学習の世界に入り込むようになるのには、
何かのきっかけが必要です。

我々教員は、そのきっかけづくりにも少
でも役立ちたく思っています。教員は研究
者と教育者を兼ね備えます。この2つの両
輪が見事に備わっている優れた先生に、ぜ
ひともアタックしてください。市大に入っ
た限り、市大の有益な社会資源を十分吸い
尽くして卒業すべきでしょう。皆さんは今
まさにそのスタートラインに立っているの
です。

玉井 金五(たまいきんご)

1950年生まれ

1980年大阪市立大学大学院経済学研究科
博士課程修了

現在、大阪市立大学教務担当部長、経済学研究
科教授

専攻分野/社会政策論
全学共通教育の担当科目/社会科学のフロン
ティア

1ページ丸覚えというのは、やってみな
いとわからないものですが、かなり骨の折
れる作業です。まず、一字一句、隅々まで理
解できてないといけません。理解のあやふ
やなところはどうしても覚えられないもの
です。皆さんは、これは先生にとっては楽
ではないかと思われるかもしれませんが、学
生が紙に書き始めてから点数の報告が済む
まで、先生は特になさることもなく授業時
間の大半が過ぎていくわけですからね。で
も山本先生の場合はそうではないというこ
とはすぐわかりました。学生が書いている
間見回りをされていて、思いだせない学生
には単語をちよつと耳打ちされていました。
もちろん何もご覧にならずに、ですよ。つ
まり先生も1ページ丸覚えしてから教室に
来られていたわけです。学生も大変だけど
先生も大変だな、と思いましたよ。山本先
生は暗唱の効果について信念を持っておら
れて、「続けていると楽になってくるからね」
「楽になると楽しくなるよ」、「英語ができる
ようになるにはこれが一番だよ」と励まし
続けられました。「ご自分も、アカサ・クリ
スの小説を3冊覚えた」とか「毎晩時間
を決めて覚えている」とおっしゃったのは
衝撃を受けました。先生ですらそんな訓
練を続けておられるのだから、私たち学生
も騙されたと思つてやるしかないな、と思
えたものです。

ところで私はじつは今もこの方法を実践
しています。シエイクスピアやハリー・ポ
ッターなどいろいろなものを覚えていま
す。英語に限りません。ラテン語でウエルギリ
ウスを覚えてみたり、ギリシャ語でエウリ
ピデスの悲劇の一節を覚えてみたり。外国
語はしよせん外国語であつて、いつまでも
難しいものですが、この方法は確実に言語
が血肉となる方法だと感じます。

大阪市立大学の カレッジ・イングリッシュ(CIE)

前学長金児暁嗣先生の掛け声で大阪市立
大学の英語教育が大きく見直され、新しく
カレッジ・イングリッシュが誕生しました。
私はその誕生前の全学英語教育検討委員会
の委員を務めたのですが、今も思い出され
るのは、最高の英語教育を市大の学生に受
けさせたいという先生方の熱意です。委員
会では先進的な取り組みをしている他大学
の調査を行い、大阪市立大学の伝統の上に
他大学のよいところを取り入れた、まさに
最高のカリキュラムが出来上がりました。
皆さんはこれからそのCIEを受けられるの
ですが、私が学部のご経験したのと同じ
ような厳しい授業や、単調で退屈だと感じ
られるものもあるかもしれません。でもど
うか力いっぱい勉強してください。効果は
あとあとあらわれるものです。CIEは市大
が誇る、他大学の追従を許さない授業です。
どうか信頼して付けてきてください。困つ
たときには先生に相談してください。授業
中に質問するのもよし、休み時間に先生を
捕まえて聞くのもよし、研究室まで訪ねて
行くのもいいでしょう。先生方はどんなに
忙しそうにされていて、皆さんに教える
こと以上に大切な仕事などありませんから
遠慮はいりませんよ。

廣田 麻子(ひろたあさこ)

1993年3月大阪市立大学大学院文学研究科

(英文学専攻)後期博士課程単位取得後退学

現在、看護学研究科講師(一般教育)

専攻分野/英国演劇・西洋比較文学・舞台芸術論
全学共通教育の担当科目/カレッジ・イングリッ
シュ(CIE)